

6. 障害者

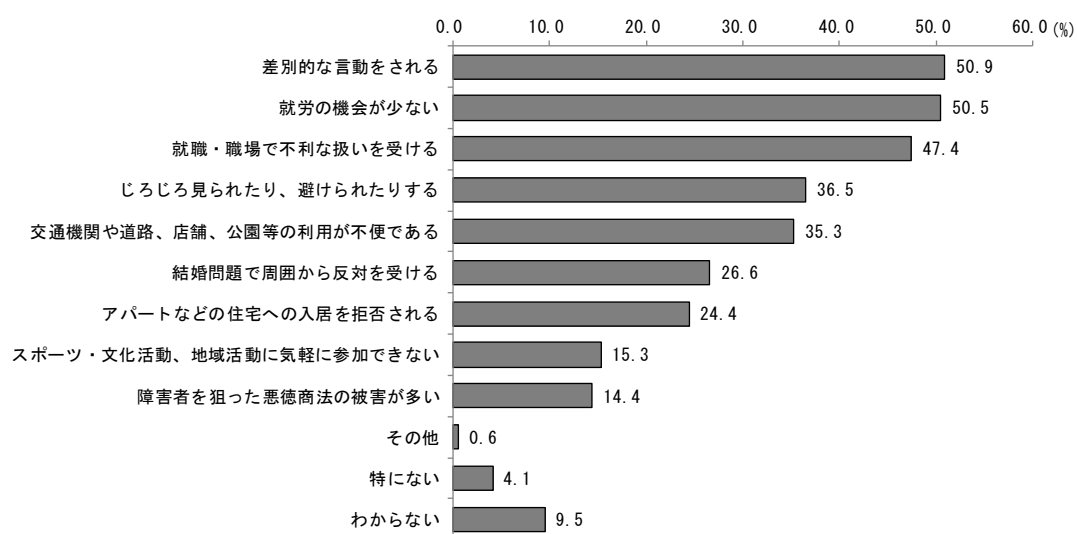
(1) 障害者に関する人権上の問題点

問6-1 障害者に関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。

【〇はいくつでも】

1. 差別的な言動をされる
2. 就職・職場で不利な扱いを受ける
3. 結婚問題で周囲から反対を受ける
4. 就労の機会が少ない
5. じろじろ見られたり、避けられたりする
6. アパートなどの住宅への入居を拒否される
7. 交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である
8. スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない
9. 障害者を狙った悪徳商法の被害が多い
10. その他（具体的に ）
11. 特にない
12. わからない

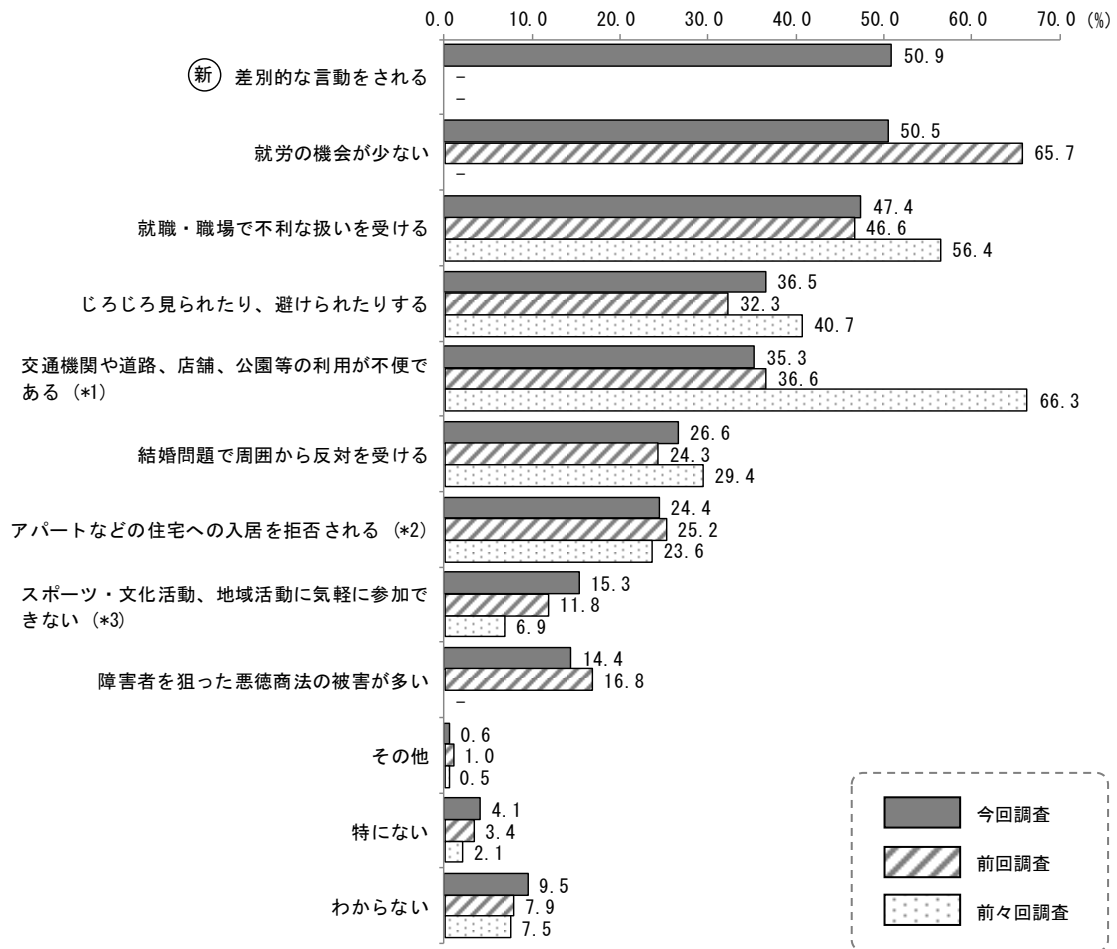
図 6-1 障害者に関する人権上の問題点 (%)



障害者に関する人権上の問題点については、「差別的な言動をされる」の割合が 50.9%で最も高く、次いで「就労の機会が少ない」が 50.5%、「就職・職場で不利な扱いを受ける」が 47.4%となっている。

「その他」の記述としては、「働いても賃金が少ない」「行政が福祉を切り捨てないこと」「福祉施設等において、障害者の能力などが評価されにくい」などがあつた。

図 6-2 障害者に関する人権上の問題点 (%) [過去調査との比較]



*1 「交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である」は、前々回調査「外出時に道路、店舗、公園等の利用が不便なこと」、「外出時に交通機関の利用が不便なこと」を合計したものと比較。

*2 「アパートなどの住宅への入居を拒否される」は、前回・前々回調査「アパートなどの住宅への入居が困難である」との比較。

*3 「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できない」は、前回・前々回調査「スポーツ・文化活動・地域活動に参加できない」との比較。

* 前々回調査の回答条件は【3つまで○】。

前回、前々回調査と比較すると、「スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない」は増加してきており、「交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である」の割合は減少してきている。

また、前回調査より、「就職・職場で不利な扱いを受ける」や「じろじろ見られたり、避けられたりする」は増加し、「就労の機会が少ない」は減少している。

表 6-3 障害者に関する人権上の問題点【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
差別的な言動をされる	51.3	-	-	50.8	-	-
就労の機会が少ない	51.1	66.3	-	50.1	66.5	-
就職・職場で不利な扱いを受ける	47.6	47.7	58.1	47.0	46.9	55.4
じろじろ見られたり、避けられたりする	37.4	32.6	40.4	36.0	32.8	40.7
交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である	33.0	36.4	65.2	37.5	37.7	68.0
結婚問題で周囲から反対を受ける	26.8	25.0	31.3	26.7	24.7	27.5
アパートなどの住宅への入居を拒否される	20.3	23.1	21.6	27.9	27.2	25.7
スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない	16.0	12.6	8.1	14.7	11.6	5.9
障害者を狙った悪徳商法の被害が多い	14.0	16.9	-	14.6	17.2	-
その他	0.7	1.2	0.5	0.6	0.8	0.6
特になし	3.7	3.2	1.9	4.3	3.7	2.2
わからない	10.3	6.5	6.8	8.8	9.2	7.9

性別で見ると、男女ともに「差別的な言動をされる」の割合が最も高くなっている。また、「交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である」や「アパートなどの住宅への入居を拒否される」などでは女性の割合が高く、「差別的な言動をされる」や「就労の機会が少ない」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない」の割合は男女ともに増加してきている。また、前回調査より、男女ともに「じろじろ見られたり、避けられたりする」の割合が最も増加している。

表 6-4 障害者に関する人権上の問題点【年齢別】 (%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
差別的な言動をされる	76.5	67.8	67.5	53.6	52.3	48.6	37.1
就労の機会が少ない	41.2	35.7	51.5	49.8	60.1	56.1	43.4
就職・職場で不利な扱いを受ける	41.2	51.3	55.0	52.5	45.6	50.3	37.9
じろじろ見られたり、避けられたりする	41.2	53.0	46.7	42.1	38.4	34.9	23.7
交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である	17.6	26.1	32.0	35.6	41.6	38.8	32.8
結婚問題で周囲から反対を受ける	35.3	22.6	32.0	30.3	28.8	25.4	22.5
アパートなどの住宅への入居を拒否される	41.2	30.4	32.5	28.4	23.5	24.9	16.4
スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない	11.8	17.4	18.9	15.3	13.2	16.8	13.1
障害者を狙った悪徳商法の被害が多い	5.9	15.7	23.1	15.7	13.9	12.3	12.1
その他	0.0	1.7	0.6	0.8	1.1	0.3	0.3
特になし	5.9	0.9	1.8	1.5	2.1	5.3	7.6
わからない	11.8	4.3	5.9	9.2	5.0	10.9	14.4

年齢別でみると、40歳代以下の年齢層では「差別的な言動をされる」が、50歳代以上の年齢層では「就労の機会が少ない」の割合が最も高くなっている。

また、20歳代の「じろじろ見られたり、避けられたりする」、30歳代と40歳代の「就職・職場で不利な扱いを受ける」、50歳代の「差別的な言動をされる」が高い割合となっている。

表 6-5 障害者に関する人権上の問題点【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	商 工 サ ー ビ ス 業	勤 め	職 員 、 公 務 員 、 職 員 、 公 務 員 及 び	医 療 関 係 者 及 び	教 育 ・ 福 祉 及 び	自 由 業 、 そ の 他 有 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
差別的な言動をされる	39.4	48.8	53.1	63.3	48.4	48.6	75.0	43.4		
就労の機会が少ない	46.8	52.0	51.7	62.5	46.9	47.5	50.0	44.5		
就職・職場で不利な扱いを受ける	41.3	47.2	43.9	57.9	50.0	49.2	57.5	43.2		
じろじろ見られたり、避けられたりする	28.4	30.7	39.6	44.0	42.2	36.3	60.0	29.8		
交通機関や道路、店舗、公園等の利用が不便である	30.3	27.6	35.1	39.8	28.1	38.0	40.0	36.8		
結婚問題で周囲から反対を受ける	20.2	25.2	24.3	37.1	26.6	27.4	37.5	23.7		
アパートなどの住宅への入居を拒否される	11.0	19.7	23.1	34.7	18.8	31.3	35.0	21.6		
スポーツ・文化活動、地域活動に気軽に参加できない	10.1	9.4	13.9	18.9	15.6	16.2	27.5	16.2		
障害者を狙った悪徳商法の被害が多い	10.1	11.8	14.6	18.1	15.6	13.4	7.5	14.9		
その他	0.9	1.6	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8		
特になし	5.5	1.6	2.1	1.5	7.8	5.0	0.0	6.9		
わからない	11.9	11.0	9.0	2.3	14.1	10.6	5.0	13.1		

職業別でみると、『農林漁業』『商工サービス業』『無職』では「就労の機会が少ない」が、『勤め』『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』『生徒・学生』では「差別的な言動をされる」が、『自由業、その他有職』と『家事専業』では「就職・職場で不利な扱いを受ける」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』の「就労の機会が少ない」や『生徒・学生』の「じろじろ見られたり、避けられたりする」が高い割合となっている。

【参考】全国調査（内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<障害者に関する人権問題>

問9 あなたは、障害者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位4項目）

	平成 29 年 10 月	（参考）平成 24 年 8 月
・就職・職場で不利な扱いを受けること	49.9%	47.0%
・差別的な言動をされること	48.7%	39.8%
・じろじろ見られたり、避けられたりする	47.6%	44.7%
・職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	45.6%	35.5%

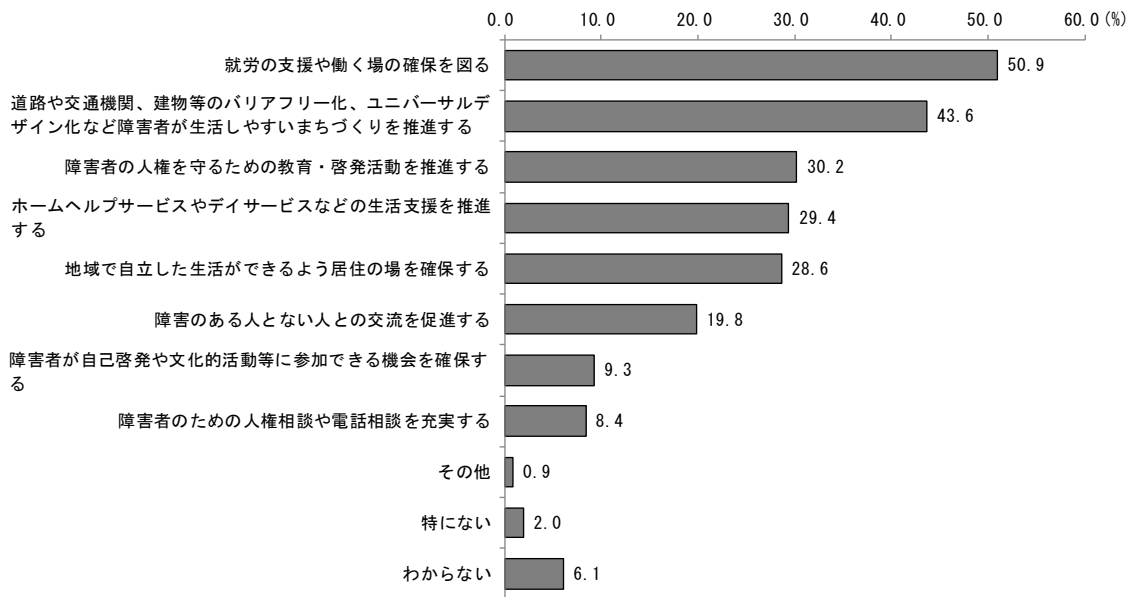
(2) 障害者の人権を守るために必要なこと

問6-2 あなたは、障害者の人権を守るために必要なことはどのようなことだと思いますか。

【〇は3つまで】

1. 障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. 道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する
3. 地域で自立した生活ができるよう居住の場を確保する
4. 就労の支援や働く場の確保を図る
5. 障害のある人とない人との交流を促進する
6. 障害者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する
7. ホームヘルプサービス（居宅介護）やデイサービス（生活介護）などの生活支援を推進する
8. 障害者のための人権相談や電話相談を充実する
9. その他（具体的に ）
10. 特にない
11. わからない

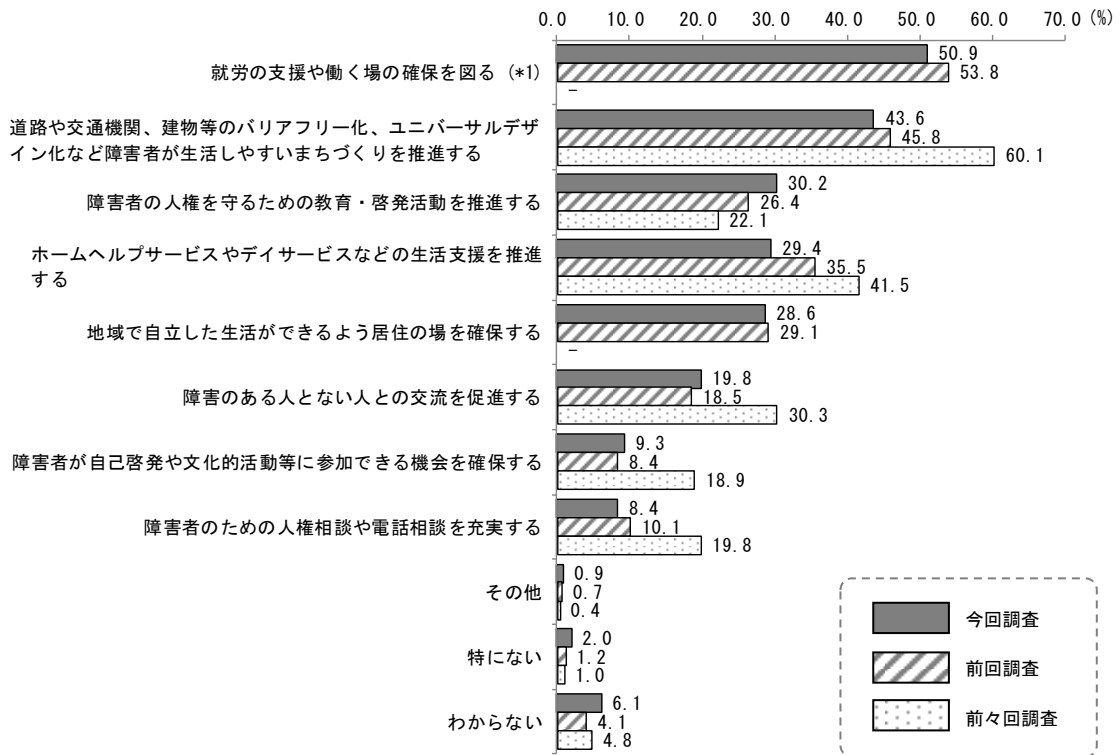
図 6-6 障害者の人権を守るために必要なこと (%)



障害者の人権を守るために必要なことについては、「就労の支援や働く場の確保を図る」の割合が 50.9%で最も高く、次いで「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が 43.6%、「障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」が 30.2%となっている。

「その他」の記述としては、「障害者認定基準をもっと低くする」「障害ではなく、個性として認識する」「福祉の現場で働く人たちの待遇改善も必要」などがあつた。

図 6-7 障害者の人権を守るために必要なこと (%) [過去調査との比較]



*1 前々回調査では、「住居の確保や、就労環境を整備する」が43.6%。

前回、前々回調査と比較すると、「障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合は増加してきており、「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」や「ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する」は減少してきている。

また、前回調査より、「障害のある人とない人との交流を促進する」は増加し、「就労の支援や働く場の確保を図る」は減少している。

表 6-8 障害者の人権を守るために必要なこと【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
就労の支援や働く場の確保を図る	50.6	53.0	-	51.3	55.7	-
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する	41.2	44.1	60.3	45.7	48.4	61.0
障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	33.7	30.4	25.0	27.7	23.8	19.6
ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する	25.6	31.3	36.5	32.2	39.8	45.7
地域で自立した生活ができるよう居住の場を確保する	29.3	28.7	-	28.0	30.3	-
障害のある人とない人との交流を促進する	19.1	19.8	32.7	20.6	17.9	28.9
障害者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	8.9	9.9	20.6	9.7	7.5	17.6
障害者のための人権相談や電話相談を充実する	9.2	10.9	21.0	7.6	9.7	18.1
その他	0.7	1.0	0.2	1.1	0.4	0.6
特になし	2.3	1.9	1.2	1.8	0.7	1.0
わからない	6.4	3.2	4.3	5.8	4.9	5.3

性別で見ると、男女ともに「就労の支援や働く場の確保を図る」の割合が最も高くなっている。また、「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」や「ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する」などでは女性の割合が高く、「障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」や「地域で自立した生活ができるよう居住の場を確保する」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合は男女ともに増加してきている。また、前回調査より、男女ともに「障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が最も増加している。

表 6-9 障害者の人権を守るために必要なこと【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以上
就労の支援や働く場の確保を図る	52.9	49.6	58.6	52.1	56.2	58.9	36.1
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する	41.2	44.3	34.3	42.5	48.0	45.0	43.7
障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	17.6	30.4	27.8	28.0	27.4	28.8	36.6
ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する	17.6	27.0	28.4	28.0	33.8	36.0	22.5
地域で自立した生活ができるよう居住の場を確保する	23.5	26.1	30.2	34.9	31.3	25.7	25.3
障害のある人とない人との交流を促進する	17.6	27.8	24.9	24.1	18.5	19.8	13.9
障害者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	11.8	5.2	5.9	7.3	11.7	9.5	11.4
障害者のための人権相談や電話相談を充実する	5.9	4.3	7.1	6.1	5.7	9.5	12.6
その他	0.0	0.9	1.8	1.1	1.8	0.6	0.3
特になし	5.9	3.5	1.8	1.5	0.7	1.1	3.5
わからない	17.6	4.3	4.7	5.7	3.9	5.6	9.1

年齢別で見ると、70歳以上では「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が、そのほかの年齢層では「就労の支援や働く場の確保を図る」の割合が最も高くなっている。

また、50歳代と60歳代の「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が高い割合となっている。

表 6-10 障害者の人権を守るために必要なこと【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工 業	勤 め	職 員 、 医 療 関 係 者 及 び	教 育 ・ 福 祉 社 員 及 び	そ の 他 業 、 自 由 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
就労の支援や働く場の確保を図る	49.5	51.2	57.1	57.5	56.3	52.5	47.5	38.6		
道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する	31.2	37.8	41.5	49.4	35.9	52.0	47.5	44.7		
障害者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	32.1	26.8	23.8	35.5	39.1	30.7	22.5	33.9		
ホームヘルプサービスやデイサービスなどの生活支援を推進する	19.3	27.6	32.8	29.3	31.3	34.1	25.0	27.0		
地域で自立した生活ができるよう居住の場を確保する	24.8	30.7	32.3	33.2	20.3	21.8	32.5	26.2		
障害のある人とない人との交流を促進する	25.7	20.5	21.0	25.9	21.9	15.1	27.5	14.4		
障害者が自己啓発や文化的活動等に参加できる機会を確保する	8.3	12.6	8.0	9.7	7.8	8.9	5.0	10.8		
障害者のための人権相談や電話相談を充実する	11.0	7.9	5.9	5.4	15.6	8.9	5.0	11.3		
その他	1.8	1.6	0.7	1.2	0.0	1.1	2.5	0.5		
特になし	2.8	1.6	1.9	1.2	1.6	1.1	0.0	3.1		
わからない	9.2	4.7	5.0	1.2	4.7	7.3	10.0	9.5		

職業別でみると、『生徒・学生』では「就労の支援や働く場の確保を図る」と「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が、『無職』では「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が、そのほかの職業では「就労の支援や働く場の確保を図る」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』と『家事専業』の「道路や交通機関、建物等のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化など障害者が生活しやすいまちづくりを推進する」が高い割合となっている。